

5月16日(水) 本年度第41回(通算2633回) 12時30分～ 釧路プリンスホテル

『ロータリー雑学』

担当/ロータリー研修委員会

☆お客様と来訪ロータリアン

☆メイクアップ

5月14日	高橋 貢君、田中和紀君、石井東洋彦君、高橋邦弘君 中島谷友一朗君、大友 淳君、新妻繁市君、本間明美君 東海林 均君、岡田 拓君、中井 寛君、中嶋嘉昭君、 平澤利秀君、泰地浩幸君、小野寺英夫君、菊池美恵子君	(釧路西RC)
-------	---	---------

☆出席報告【会員総数65名 免除9名 出席計算に用いた会員数65名】
本日の出席者 35名 本日の出席率 53%

☆ニコニコ献金 (今年度累計 736,000円)

- ・村井委員長よろしくお祈いします
- ・今日はよろしくお祈いします
- ・花束届きました
- ・29年経ちました

能登信孝君、田中和紀君
村井順一君
小山義雄君
高橋邦弘君

☆会長挨拶
《能登会長》



皆さんこんにちは。12日の土曜日に第6分区の芽室ロータリークラブの50周年記念式典に田中幹事と共に出席してきました。北クラブの設立者でおられた両角さんが北クラブ創立4年目に北海道全域が350地区のガバナーのときに設立されたクラブだそうです。地区内で同じ年度で4番目のクラブと話しておりましたのでクラブの拡大がさかに行われていたときです。私はクラブに入会して両角パストガバナーに一度だけ会ったことがあります。入会して7年目の副幹事をしたときに旭川の地区大会にご夫妻で出席され、二次会の席でとりに座り接待した記憶があります。

今日の例会はロータリー研修委員会のロータリー雑学となっております、よろしくお祈いします。

☆幹事報告
《田中幹事》



- ①. 先週土曜日5月12日芽室RC創立50周年記念式典ならびに祝賀会は、能登会長と私とで出席してまいりました。
- ②. 今週月曜日5月14日、西クラブへの集団メーキャップに北クラブ総勢19名で出席してまいりました。
- ③. 5月26日27日に行なわれますローターアクト地区大会、登録料の締め切りが今週18日金曜日までとなっております。参加される方は期日までの振込をお願い致します。
- ④. 足立パストガバナーがバンコクの国際大会に出席され戻られました。後程お土産話、報告等、お祈いしたいと思ひます。
- ⑤. すでに昨日FAX、メール等でご案内申し上げておりますが、RI第2500地区第7分区、飲酒撲滅及び交通事故防止キャンペーンパークゴルフ大会のご案内をした所です。6月17日(日)場所は赤いベレーということで、出欠の締め切りを5月25日までとしておりますので宜しくお祈い致します。



高橋邦弘パスト会長

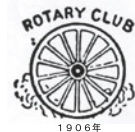
「ロータリーの歯車」



2012年現在 国際ロータリー公式



1905年



1906年



1906年



1910年



1912年



1920年

ロータリー誕生の年に歯車も生まれた

世界中のロータリーの組織を象徴するため考案された歯車は、1905年(明治38年)ロータリー誕生の年に生まれている。

これは、ロータリー最初のクラブの彫刻家であったモンターギューM. ベアが、シカゴの元気あふれる若い職業および専門職業人の新しいグループの徽章として、簡単にして、かつ素朴な形の車輪を描いて、これをクラブに持参し提供したことに始まるのだ。創設者ポール・ハリスは、モンティーに対し幾つかの試案の提示を求めた結果、ポールはじめ一同が一致して賛成したのが、この車輪である。つまり、車輪は皆に親しまれた象徴であり、車輪は第一Rotateするからであった。

これが今日、襟章として、道標として、カフスボタンとして、ネクタイとして、その他例会の襟章に、壁掛けに、レターヘッドに、その他いわゆるロータリーを象徴する記号として使われている歯車の始まりである。モンティーの考案のままの車輪は、そのままでは続かず、その後幾多の改良が行われ、これではあまりに簡単すぎるという見地から、モンティー・ベア自身、さらに車輪の下の部分に、雲のようなデザインを加えた。

しかし、その後、幻燈のスライド製作者である“LongTom” Philipは雲の部分をもさらに広げてその上にリボンをつけ、これにRotaryClubの文字を入れた。つまり車輪が現実にも動いている体裁を整えたデザインにしたのであった。

独自の徽章を考案

この間、サンフランシスコ、オークランド、シアトル、その他のクラブでは、車輪を取り入れて独自の徽章を考案して使っていた。1910年に16のクラブが連合して新しいナショナルアソシエーションを組織したのであるが、定款その他の規定の作成に忙しく、徽章のことに触れる余裕がなかった。本部はシカゴ・クラブの徽章を何とはなしに使っていたが、1912年ドルースで連合大会を開催するに当たり、本部としてもこのままにはできないので、全体に共通する徽章のデザインを考案するよう、全クラブに呼びかけた。しかし、もちろん車輪を基本的なものとするに変わりはなかった。かくして、ドルースの大会においてロータリーは名実ともに国際的になったが、ロータリーは、ここに初めてローヤル・ブルー(濃青色)と金色の歯車を正式の徽章として、制定したのであった。しかし、その後専門家から、この歯車は技術的に不完全であり、このままでは動かないとの注意が出たので、2人の技術者(ドルースのOscar B. 局orgeとシカゴのCharles Henry Mackintosh)からなる委員会が任命され、技術的に正確に動く歯車が検討された。

禿穴を付け加え完成

この委員会が考案したデザインは1920年正式に採用公布となり、これが今日われわれが親しんでいるロータリー・マークであるが、ただ、ひとつだけ違いがある。それは、前記2人の委員が禿穴(Keyway)を見落としたことで、これがないと歯車は車軸からの(または車軸への)力を伝えることができなくて遊んでしまうわけである。かくして禿穴も付け加えられて、歯車は休止することなく今日まで回転し続けているのである。この歯車に国際ロータリーとしては、一般的な解釈以外に何か特別の意義を持たせているのではないかと、よく問題になるが、公式にいつても何もない。しかし古来幾千のクラブが歯車の6つの輻と24の歯に特別の意義を見いだしている。

(ロータリーの友より)